

＊ ＊ 支部長挨拶 ＊ ＊ 支部長 川浪 良次

暑中お見舞い申し上げます。新年早々に襲った能登半島地震から早8か月が過ぎましたが、被災現場の復旧・復興は未だなお厳しい状況にあるようです。同時期に発生した、台湾地震の初動対応とはあまりにも大きな違いに、忸怩たる思いを禁じえませんでした。

想定外の自然災害が多発する今日、防災士への期待は日々大きくなっております。自然災害は人間の力では止めることはできませんが、備えることによって軽減することはできます。

その地域で生活するみんなが防災・減災への強い意識を持つ「持たせる」ことが第一歩かと思います。個人単独活動には限りがあります、志をもって防災士になった者同士がスクラムを組んで、地域を熟知した住民・行政を巻き込み、知恵を絞り汗をかき合い、防災士としてのスキルをアップし「助けられる人から助ける人に」自信をもって行動できるよう率先垂範・出来ることから取り組みましょう。

今年度は支部会員の総力を挙げての活動になります、どうぞよろしくお願い致します。



～地区防災活動の要として防災士に大きな期待・・・今年度も委託事業受託～

国の消防庁が提唱する地域防災力向上事業に長崎県が呼応し、県内の市町自主防災組織の結成促進及び活動の活性化を図るための事業を今年度早々長崎県防災企画課から、当支部に委託の打診を受け受託契約を結び取り組むこととなりました。

会員の皆様の絶大なるご協力をよろしくお願い致します。

- 1、市町や地域自治会等と連携し地区防災組織の立ち上げ時の課題を整理
- 2、全国の優良事例から課題の対策を取りまとめ、長崎県版の事例集作成
- 3、市町研修会（講演及びパネルディスカッション）の実施

＊ ＊ ＊ 具体的な実施内容 ＊ ＊ ＊

- (1) 県内の自主防災組織率8割に至っていない8市町（長崎市、佐世保市、諫早市、大村市、雲仙市、松浦市、対馬市、新上五島町）において立ち上げの課題となっている事柄について、ヒヤリングの実施。
- (2) 日本防災士会と連携し優良事例を収集
- (3) 長崎県内の自治体で活用できるような、長崎県独自の事例集を作成する。
- (4) 事例集を作成後、当該事例集を使用し、市町職員向けの研修会（講師等の調整も含む）の実施

☆☆防災士育成のための講座開設等業務委託・・・長崎県ボランティア振興基金から受託☆☆

＊養成講座（長与町） 令和6年10月5日（土）・6日（日） 詳細は決定次第連絡します。

＊フォローアップ研修（川棚町） 令和6年9月29日（日） 場所：川棚町中央公民館

支部主催研修 自然災害を生き残る 想定外の自然災害を生き残る研修

日 時 令和6年8月24日（土） 13時30分～17時（準備12時 開場13時）

場 所 諫早市中央公民館 講堂（諫早市役所前）

長崎市防災ひろば ～見て・知って・体験して・楽しく防災～

日 時 令和6年9月1日（日） 11時～15時

場 所 長崎市役所庁舎前広場、2階多目的スペース等

☆☆☆日程調整の上、お誘い（お知り合いの防災士を含む）

あわせ多くの会員の参加をお願いします。



～～お忘れではありませんか～～

支部会費納入の確認をお願いします。

支部会費（年額2,000円）は毎年8月末までに納入することになっておりますので確認をお願いします。

なお、台帳が未納となっている方には振替用紙を同封しております。（早めの納付をお願いします。）

*振替用紙が1枚同封の方・・・・・・令和6年度分です。

*振替用紙が2枚同封の方・・・・・・令和5年度分と令和6年度分です。（其々用紙に年度を記載しています）

*振替用紙が同封されてない方・・・・・・納付済みです。

行き違い等、お問い合わせは事務局までご一報をお願いします。 TEL090-3013-8023

◎県支部グループラインへの接続をお願いします。

現在82名の方が参加されています、お知らせや各種案内及び情報の共有化など大いに活用中です。



QRコードやリンクを使って、友

左記のQRコードをスキャンして友達追加で送信してください。

事務局（瀬崎）より折り返しグループラインへ招待通知があります。

招待通知を受けたら、自己紹介など入力して参加をお願いします。

以上で完了です。

※着信音が気になる方は消すことが出来ますのでお尋ねください。

※グループライン利用にあたっての注意事項！！

多くに会員の方がほかの団体でご活躍のことと思います、防災士会以外の情報を流す場合は支部長経由でお願いします。 先ずは支部長に連絡をください、支部長が添え書きをしてラインに乗せます。

◎防災士に期待される役割・・・・・・防災士教本抜粋（日本防災士機構）

1、地域社会の防災リーダーとして「自分から動く」こと

防災士は、日ごろから防災について十分な意識と一定の知識・技能を持ち、防災リーダーとして総合的な防災力向上の中心になって活動することが期待されている。したがって、自治体などから呼びかけがあって初めて動く、といった指示待ちの受け身ではなく、自分が家庭や職場、地域において、何ができるのか、何をすべきか、主体的に能動的に考え、まず第一歩として自宅の防災対策から取り組むべきである。地域で活動する際も、お手伝いする、協力する、という考え方も良いがもう一歩踏み込んで「自分が地域の防災力を担っていく」ぐらいの積極的な気概を持つべきであろう。

2、ネットワークのつなぎ役

地域の防災力を高めるためには、住民、自主防災組織、各種ボランティア、公的機関が情報を共有し、補完し合って活動することが大事である。防災士は一人で行動することだけでなく、日ごろからこのような防災に関して活動している様々な人的ネットワークのつなぎ手として活動することが期待される。そのために防災関係者や地域の人々と「顔の見える関係」を築いておくことが大切となる。

3、組織的な活動の必要性

一人ひとりの防災士がいかに有能であったとしても、個人の活動には限界がある。行政が企業や団体などと協定を結び、大規模災害に備える事例が増えているが、防災士もまた、行政や防災団体と連携するためには、組織、ネットワーク、集合体として活動することが望ましい。・・・・・・以下省略

4、専門性をいかした活動

大きな災害が起きると、自治体の全組織を挙げて対応しなければならない。警察、消防のみならず自治体の職員は全員、防災担当職員という意識を持つべきであり、また、防災士として災害に関する広い知識を有することは、より適切かつ効果的な活動を可能とする。防災士は職務以外の場合においても災害対策のエキスパートとして、防災に関する幅広い知識、経験、能力を活かして防災力の中核となることが期待される。・・・・・・

～県支部内でも市町ごとに防災士のネットワークを結成し活動！！～

平戸市＝市内の防災士71名で結成、年4回自主的な研修会を開催しスキルアップ！

各地区の自主防災研修に出向き、講師を務め、地元ならではの防災・減災についての啓発啓蒙活動に取り組んでおられます。

雲仙市＝5月28日行政と市内在住防災士の意見交換会を開催！！

防災士同士が初めての顔合わせ、繋がることの必要性和ネットワークの結成を確認されました。